平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月8日

上場会社名　神姫バス株式会社　　上場取引所　大
コード番号　9083　URL　http://www.shinkibus.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 上杉　雅彦
問合せ先責任者 (役職名) 企画部長　(氏名) 永井　勝浩　TEL 079-223-1243
四半期報告書提出予定日　平成23年11月14日　配当支払開始予定日　平成23年12月6日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	19,780	△2.2	658	△7.6	729	△4.7	355	△30.6
23年3月期第2四半期	20,220	2.5	712	△11.7	765	△10.5	512	16.7

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　339百万円　(△13.4%)　23年3月期第2四半期　391百万円　(—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	11.78	—
23年3月期第2四半期	16.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	44,874	30,666	68.1
23年3月期	44,723	30,403	67.8

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　30,566百万円　23年3月期　30,305百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
24年3月期	—	2.50			
24年3月期(予想)			—	2.50	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	△0.3	900	△17.4	1,030	△16.4	1,300	△6.7	43.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料の4ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	30,860,000 株	23年3月期	30,860,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	701,757 株	23年3月期	699,997 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	30,159,352 株	23年3月期2Q	30,165,797 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 4
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（５）セグメント情報等 …… 10
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災による影響が広範囲に亘るとともに、原発事故の影響と電力需要の制約、更には長期化する円高が懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで当社グループは、「ＣＳＲ（企業の社会的責任）活動の更なる推進」と、グループ内外との連携強化や成長分野へのチャレンジを中心とした「21世紀型のグループ経営」に努めてまいりました。ＣＳＲ活動では、輸送における安全の確保に向け不断の取組みを行うとともに、法令順守と環境対策、ＣＤ（顧客感動）活動にも継続的に取り組んでおります。事業面では、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は前年同期比439百万円（△2.2%）減の19,780百万円、営業利益は前年同期比54百万円（△7.6%）減の658百万円、経常利益は前年同期比36百万円（△4.7%）減の729百万円となりました。また、四半期純利益につきましては、大口賃貸先との契約改定により解約保証金等受入益等が発生した前年同期に比べまして156百万円（△30.6%）減の355百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

① 自動車運送

乗合バス部門は、三ノ宮を拠点とする中距離路線や明石地区で増回を行い収益路線の強化を図るとともに、自治体からの要請に応じて路線を新設するなど地域の足の確保に努めましたが、震災による出控えや台風上陸の影響などにより前年同期に比べ減収となりました。貸切バス部門は、震災の被災地支援で東北方面へボランティアや自治体職員の輸送を行いましたが、東京ディズニーリゾートツアーの大幅な減少や台風上陸の影響などにより減収となりました。また、タクシー部門は、景気低迷により利用が減少傾向で推移したことに加え、連結子会社の明石神姫タクシー㈱を清算したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比226百万円(△2.2%）減の9,844百万円となりました。営業損益は、燃料費の増加はありましたものの、人件費、減価償却費等を中心とした固定費を削減したことにより30百万円改善しましたが、131百万円の営業損失となりました。

② 車両物販・整備

車両物販部門は、新車購入補助制度の終了などにより自動車販売台数は減少しましたが、設備機器及びタイヤの販売が好調に推移したことにより増収となりました。また、整備部門は、車検台数は増加しましたものの、バスの車体塗装や事故修理が減少したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比２百万円（△0.1%）減の3,063百万円、営業利益は21百万円（△14.3%）減の129百万円となりました。

③ 業務受託

車両運行管理部門及び経営受託部門は、前年同期並で推移いたしましたが、介護部門においてデイサービス及びショートステイの稼動がアップしたこと等により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比17百万円（1.2%）増の1,462百万円となりましたが、営業利益は燃料費、修繕費を始めとする営業費用が増加したことにより前年同期比９百万円（△6.0%）減の141百万円となりました。

④ 不動産

販売部門は、分譲地販売区画数及び建物販売戸数が共に増加したことにより増収となりましたが、特販部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、前年同期並で推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比98百万円（△5.4%）減の1,723百万円となりましたが、営業利益は収益物件取得の初期費用が発生した前年同期に比べまして３百万円（0.6%）増の594百万円となりました。

⑤ レジャーサービス

飲食部門は、サービスエリア事業が高速道路の休日上限1,000円制度が廃止になったことの影響を受け減収となりましたが、前連結会計年度に㈱神戸を連結子会社化したことにより、居酒屋事業の収益が寄与し、増収となりました。また、レンタル部門・ＴＳＵＴＡＹＡは、近隣競合店の閉店により太子店の売上が大きく伸び、増収となりました。しかしながら、旅行部門は、震災の影響により、東京ディズニーリゾートツアーの集客が大幅に減少したことや団体旅行のキャンセル、旅行手控えなどにより減収となりました。また、遊技場部門は、低価格貸玉営業を開始するなど顧客確保に努めましたが、近隣競合店との競争激化により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比156百万円（△3.3%）減の4,523百万円、営業損益は前年同期比46百万円（△311.2%）悪化し、60百万円の営業損失となりました。

⑥ その他

売上高は前年同期並の648百万円となりましたが、営業利益は化粧品販売部門における直営店の新規出店費用や農業事業の生産開始に伴う費用の発生などにより前年同期比19百万円（△77.6%）減の５百万円となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第２四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ151百万円増加し、44,874百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加179百万円、自動車運送事業における補助金未収の減少760百万円、車両購入や車庫用地の取得等による有形固定資産の増加607百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ111百万円減少の14,208百万円となりました。増減の主なものは、リース債務の増加312百万円、未払法人税等の減少437百万円、借入金の返済による減少203百万円であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ262百万円増加の30,666百万円となり、自己資本比率は68.1%となりました。

②キャッシュフローの状況

当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末に比べ421百万円増加し、6,351百万円となりました。

当第２四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益759百万円に非資金項目である減価償却費等を調整した結果、前年同期比586百万円（△20.8%）減の2,226百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が減少したこと、法人税等の支払額が増加したこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前年同期比617百万円（△32.8%）減の1,265百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、前年同期比181百万円（△25.2%）減の539百万円となりました。これは主に、借入金の純返済額が減少したこと等によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年３月期の連結業績予想につきましては、平成23年５月11日に公表いたしました内容を下記の通り修正しております。

レジャーサービス業の旅行部門におきまして、東日本大震災の影響等による東京ディズニーリゾートツアーの集客減や団体旅行のキャンセルに加え、他社との競合激化による受注減もあり、当初の予定を下回る見込みです。また、自動車運送事業におきまして、ＩＣカード乗車券を活用したポイント制会員クラブである「NicoPa Club（ニコパクラブ）」の活性化を図るための費用が発生することにより、営業利益、経常利益が減少する見込みです。なお、当期純利益につきましては、経常利益が減益見込みではありますが、自動車運送事業における運行補助金が増加する見込みであること等から予想を変更しておりません。

平成24年３月期通期連結業績予想数値の修正（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想（A）	40,300	1,040	1,120	1,300
今回修正予想（B）	40,000	900	1,030	1,300
増減額（B－A）	△300	△140	△90	－
増減率（%）	△0.7	△13.5	△8.0	－
（ご参考）前期実績（平成23年３月期）	40,112	1,090	1,232	1,393

２．サマリー情報（その他）に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第２四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,108	7,287
受取手形及び売掛金	1,639	1,819
未収運賃	736	564
有価証券	110	120
商品及び製品	373	398
仕掛品	67	89
分譲土地建物	1,078	866
原材料及び貯蔵品	103	89
その他	1,608	980
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	12,815	12,206
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,148	22,203
減価償却累計額	△14,923	△15,172
建物及び構築物（純額）	7,225	7,030
機械装置及び工具器具備品	2,580	2,595
減価償却累計額	△2,134	△2,130
機械装置及び工具器具備品（純額）	446	464
車両運搬具	12,553	12,373
減価償却累計額	△10,645	△10,737
車両運搬具（純額）	1,907	1,635
土地	14,965	15,489
リース資産	2,549	3,099
減価償却累計額	△794	△1,043
リース資産（純額）	1,754	2,056
建設仮勘定	16	247
有形固定資産合計	26,316	26,923
無形固定資産		
のれん	62	56
その他	201	191
無形固定資産合計	263	248
投資その他の資産		
投資有価証券	2,910	2,999
その他	2,458	2,543
貸倒引当金	△40	△46
投資その他の資産合計	5,327	5,496
固定資産合計	31,907	32,668
資産合計	44,723	44,874

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,018	1,141
短期借入金	309	309
1年内返済予定の長期借入金	461	402
リース債務	490	595
未払金	2,427	2,302
未払法人税等	871	434
事故補償引当金	15	15
賞与引当金	858	943
過年度雑収計上旅行券引当金	13	13
その他	1,798	1,928
流動負債合計	8,263	8,085
固定負債		
長期借入金	1,362	1,218
リース債務	1,348	1,556
退職給付引当金	543	574
役員退職慰労引当金	338	111
負ののれん	6	5
その他	2,457	2,657
固定負債合計	6,056	6,123
負債合計	14,319	14,208
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	24,640	24,920
自己株式	△415	△416
株主資本合計	29,600	29,879
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	705	687
その他の包括利益累計額合計	705	687
少数株主持分	97	99
純資産合計	30,403	30,666
負債純資産合計	44,723	44,874

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
売上高	20,220	19,780
売上原価	15,133	14,705
売上総利益	5,086	5,075
販売費及び一般管理費	4,373	4,416
営業利益	712	658
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	18	24
持分法による投資利益	8	10
その他	58	67
営業外収益合計	96	113
営業外費用		
支払利息	17	12
固定資産除却損	14	10
その他	11	20
営業外費用合計	43	42
経常利益	765	729
特別利益		
運行補償金	136	30
解約保証金等受入益	457	－
特別利益合計	594	30
特別損失		
固定資産圧縮損	75	－
減損損失	212	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	－
特別損失合計	396	－
税金等調整前四半期純利益	963	759
法人税等	449	402
少数株主損益調整前四半期純利益	513	357
少数株主利益	1	2
四半期純利益	512	355

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	513	357
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△120	△17
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	△121	△17
四半期包括利益	391	339
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	390	337
少数株主に係る四半期包括利益	1	1

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	963	759
減価償却費	1,105	1,041
減損損失	212	－
賞与引当金の増減額（△は減少）	195	85
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△80	△79
受取利息及び受取配当金	△29	△35
支払利息	17	12
持分法による投資損益（△は益）	△8	△10
有形固定資産除却損	34	30
解約保証金等受入益	△457	－
売上債権の増減額（△は増加）	120	△7
たな卸資産の増減額（△は増加）	194	185
未払金の増減額（△は減少）	△235	△78
未払消費税等の増減額（△は減少）	△119	△187
その他	1,603	1,360
小計	3,514	3,076
利息及び配当金の受取額	29	35
利息の支払額	△18	△12
法人税等の支払額	△712	△873
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,812	2,226
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△0	△235
有形固定資産の取得による支出	△1,770	△1,155
その他	△111	125
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,883	△1,265
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	429	－
短期借入金の返済による支出	△459	－
長期借入れによる収入	200	50
長期借入金の返済による支出	△620	△253
配当金の支払額	△75	△75
少数株主への配当金の支払額	△0	△0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△211	△262
その他	16	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△720	△539
現金及び現金同等物に係る換算差額	－	－
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	208	421
現金及び現金同等物の期首残高	6,096	5,929
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,305	6,351

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

〔セグメント情報〕

Ⅰ 前第２四半期連結累計期間（自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他（注）	合計
	自動車運送	車両物販・整備	業務受託	不動産	レジャーサービス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	10,030	2,182	1,424	1,612	4,591	19,841	378	20,220
セグメント間の内部売上高又は振替高	40	883	20	209	88	1,242	271	1,513
計	10,070	3,066	1,444	1,822	4,680	21,084	649	21,733
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△162	151	150	590	△14	716	25	741

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備等を含んでおります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	716
「その他」の区分の利益	25
セグメント間取引消去	△28
四半期連結損益計算書の営業利益	712

Ⅱ 当第２四半期連結累計期間（自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他（注）	合計
	自動車運送	車両物販・整備	業務受託	不動産	レジャーサービス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	9,804	2,198	1,439	1,508	4,443	19,395	385	19,780
セグメント間の内部売上高又は振替高	39	865	22	215	80	1,222	263	1,486
計	9,844	3,063	1,462	1,723	4,523	20,618	648	21,267
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△131	129	141	594	△60	673	5	679

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	673
「その他」の区分の利益	5
セグメント間取引消去	△20
四半期連結損益計算書の営業利益	658

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。